

転換畑を活用した夏播き飼料増産のポイント

I. 水田転換畑の畑地化を促進する（表紙裏参照）

II. 適作物（適品種）の選定

◆乾草調製主体

耐湿性にやや優れ、夏の高温を草生産及び再生に効率よく役立てることのできるローズグラスが最適作物といえましょう。特に梅雨あけ後の干ばつ時期をねらった乾草調製は安定性が高く、しかも省エネの点でも好評です。

ローズグラスを含む暖地型牧草とイタリアンライグラスの作付体系は下記のとおりで、麦作の後地利用にもローズグラス乾草調製は最適です。

草種	1(月)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生草収量 (t/10a)			
													暖地型牧草	イタリアンライグラス	計	
ローズグラス						○	2.5 ×	2.5 ×	2 ×					7		
グリーンパニック	(イタリアンライグラス)		×	×	×								○		7	14
カラードギニアグラス			3	2	2		○	3 ×	3 ×	3 ×				9		
シコクピエ	(イタリアンライグラス)		×	×	×								○		7	16

(注) ○……播種 ×……刈取

◆サイレージ調製主体

早期水稲・早播きF₁トウモロコシの後作には、ホールクロップサイレージ調製を目的としたソルゴー・F₁トウモロコシの作付けが有利です。

F₁トウモロコシの後作にホールクロップエンバク（ハヤテ）の作付けが増加していますが、それらを播種期で整理するとおおむね下記のとおりです。

8月上旬播き	F ₁ トウモロコシ（スノーデント1号・パイオニア1号・パイオニアA号）
8月上旬～中旬播き	ソルゴー（雪印ハイブリットソルゴー・ハイカロソルゴー・ハイグレンソルゴー）
8月下旬～9月上旬播き	エンバク（ハヤテ）

〈夏～秋播き栽培の留意点〉

- ① 干ばつ時の播種となり、発芽を促すために碎土・整地をていねいに行い、播種後の鎮圧も必ず実行しましょう。
- ② 土壌水分が少ない条件ではソルゴー、適水分の場合はF₁トウモロコシが好適です。台風の襲来など悪条件も予測され、ケースバイケースで適期・適条件の作物を選び危険分散をはかることが必要です。
- ③ 秋作ホールクロップムギの品質・収量性は播種期に最も左右され、前作のF₁トウモロコシ収穫後ただちに畑を耕起しエンバクの適期播種に努めましょう。この場合、堆きゅう肥の投入・プラオ耕を省いても適期播種が重要です。